

評価対象年度	平成 30 年度
1次評価日(課長等)	元 年 10 月 1 日
2次評価日(部長等)	元 年 10 月 1 日

施策評価表

1 施策の概要

施策名	文化・芸術の振興	コード	11-1
この施策の主な内容(細施策)	(1)文化施設の活用 (2)文化活動の促進支援		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	芸術や伝統文化、歴史など市民が身近に接し、特色ある芸術文化を活発に行うことができるよう環境整備を図る。		
担当部課	部 教育部	課等 生涯学習課	作成者 小池 秀昭

●施策の実施内容(D0)

2 施策指標の達成状況

*第4次総合計画(最終年度:平成30年度)における目標指標の達成状況、第5次総合計画(前期計画:令和5年度)における目標値

施策指標名	単位	28年度	29年度	30年度			元年度	5年度
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値(第5次)	目標値(第5次前期)
① 美術考古館入館者数	人	10,205	11,283	14,000	11,709	83.6%	12,000	12,000
指標説明	美術考古館の年間入館者数							
② カノラホール入館者数	人	96,686	99,080	109,000	88,403	81.1%	99,080	109,000
指標説明	舞台芸術作品鑑賞と市民の発表の場として利用促進する。							
③ 蚕糸博物館入館者数	人	32,027	35,035	50,000	28,382	56.8%	35,035	50,000
指標説明	糸都岡谷の歴史と伝統を広めるとともに、岡谷ブランド発信の拠点として利用促進する。							
③ イルフ童画館入館者数	人	36,513	30,983	28,400	33,281	117.2%	36,513	35,000
指標説明	童画のまちづくりを推進するため利用促進する。							

3 施策全体にかかる合計コストの推移

*項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位:千円

	28年度	29年度	30年度	元年度(予算)
直接事業費	51,467	49,216	49,905	51,331
人件費	44,000	44,000	44,000	44,000
合計コスト	95,467	93,216	93,905	95,331

●施策の評価(CHECK)

4 施策の現状評価

*30年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調/不調の判断

- ・美術考古館は、リニューアルオープンから5周年を記念した事業と、縄文文化の日本遺産認定を記念した事業とにより、来館者数が増加した。
- ・カノラホールは、大ホールを使用した集客を見込めるポップス音楽などの公演が少なかったことにより、入館者数は減となった。
- ・蚕糸博物館は、平成29年度は、秋から冬に掛けて大口の団体利用が継続的にあり入館者数が増えたが、平成30年度は、大口の団体の利用が少なかったことにより入館者数は減となった。
- ・イルフ童画館は、幅広い世代に人気の「猫のダヤン」の「池田あきこ原画展」や「山口マオ展」など、人気作家の魅力あふれる企画展の開催により入館者数は増となった。

*岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み/弱みとなる要因

岡谷市の強み	文化施設がコンパクトな市街地に点在することにより、他施設との連携や回遊性が図られる。蚕糸、童画、縄文など特色ある文化が継承されている。
岡谷市の弱み	人口規模に対し文化施設の維持管理への財政負担が大きい。

5 今後の外部環境の変化

* 令和2年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	地域の特色を生かした文化振興が全国各地で進められている。 30年度に縄文の文化が日本遺産に認定されたほか、市内出土の縄文土器が県宝に指定された。
不利に働くもの	公共施設総合管理計画により施設の維持管理・長寿命化が検討され、計画的な施設の改修が求められる。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 令和2年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野=優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
* 見直しを行う分野 = 優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	市民一人ひとりの日々の暮らしを豊かにし、心の充足感、生きる力、他人に対する優しさなどをはぐくむことができるよう、文化や芸術に触れる機会の充実に努めるほか、個人や団体の主体的な文化芸術活動を発表できる場を提供し、文化や芸術への関心を高めることにより、市民の文化芸術活動の活性化を図る。
見直しを行う分野	

●令和2年度の優先度

* 方向性が「継続」の事業についてA~Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	指標名	単位	成果指標			妥当性	方向性	優先度
							28年度	28年度	28年度			
							29年度	29年度	29年度			
							30年度	30年度	30年度			
							元年度(予算)	元年度(予算)	元年度(予算)			
1	公共施設	あり	博物館管理運営事業	施設稼働率	%	100	36,378	20,000	高い	継続して実施	B：現状維持	
						100	36,201	20,000				
						100	36,413	20,000				
						100	40,440	20,000				
2	一般	なし	美術考古館学習事業	ワークショップ等の開催日数	日	35	229	1,600	高い	継続して実施	B：現状維持	
						27	153	1,600				
						46	247	1,600				
							625	1,600				
3	公共施設	あり	美術考古館管理事業	施設稼働率	%	100	10,230	9,600	高い	継続して実施	B：現状維持	
						100	8,772	9,600				
						100	8,120	9,600				
							6,477	9,600				
4	一般	なし	美術考古館展示事業	1日の入館者数	人	35	117	2,400	高い	継続して実施	B：現状維持	
						38	148	2,400				
						39	969	2,400				
							305	2,400				
5	一般	なし	美術考古館展示事業(企画展)	1日の入館者数	人	35	1,299	2,400	高い	継続して実施	B：現状維持	
						38	860	2,400				
						39	1,357	2,400				
							1,484	2,400				
6	一般	なし	博物館企画展等開催事業	1日の入館者数	人	107	3,214	8,000	高い	継続して実施	B：現状維持	
						117	3,082	8,000				
						96	2,799	8,000				
						117	2,000	8,000				
7												